強者の戦略

【第６回】英文和訳（上本）

前書き

あなたの自信作、どのようなものができたでしょうか？　英文を訳していると、どうも直訳では意味が通りにくい箇所が見られますね。つまりそこが訳しどころ、腕の見せどころです。じっくりと考えて、**もとの英語が持つ意味合いを巧く残しながら、自然な日本語訳を捻出します。**

ここで一度問題文を確認しておきたいと思います。

[問い]　次の英文を和訳せよ

Reading is not a passive act. Good writing of any kind will invite you to participate, engaging your senses, emotions, imagination, and intellect. It will trigger your own memories, and associations, and it will stimulate your thinking. When you read, you absorb, evaluate, and extend what the writer has articulated, interpreting it in light of who you are and what you know. In this sense, when you read a work of literature, you recreate it.

さて、今回は**和訳例を２つ**挙げたいと思います。すぐ下に出てくる１つ目の和訳例は英文の構造に忠実に訳したものです。engaging の箇所の分詞構文や in light of A「A を考慮して；A の観点から」のイディオムもしっかりと捉えた訳になっています。実際にこのような和訳例を書いていた方もいるのではないでしょうか。

文構造に忠実に訳した和訳例

読書は受動的な行いではありません。いかなる種類であっても、良き書物は、あなたが自分の感覚、感情、想像力や知性を従事させながら本の世界に参加するように招き込むことでしょう。それはあなた自身の記憶や連想を誘発することでしょうし、またそれはあなたの思考を刺激することでしょう。あなたが読書している時、筆者がはっきり述べたことを、自分が何者なのかや自分が知っていることの観点で解釈しながら、吸収し、評価し、そして拡張します。この意味で、文学作品を読んでいる時には、あなたがそれを再現していることになるのです。

さらに洗練した２つ目の和訳例を下に載せました。ここでは特に、日本語における**相性の良い語の結びつき**を意識して訳語を選択しています。また、語彙・文法を超えた視点で、**複数の文の間にある内容上の連関**を訳語に載せ、それぞれの文を絡ませながら全体を織り上げています。

文脈を考慮した和訳例

読書は受動的な行為ではありません。その種別を問わず、書かれたものが良質であれば、あなたは誘われるがままに五感やさまざまな感情、想像力や知性を働かせながら入り込んでしまうものです。そうであることがきっかけとなり自分自身のさまざまなことを思い出したり、さまざまな連想が働いたりするものです。また、そうであることから思考が活性化するものでもあります。読書をしている時、あなたは、自分の身元や自分の知識に照らし合わせて解釈しながら作家が著したものを取り込み、価値判断をし、そして膨らませているのです。この意味で、文学作品を読んでいる時は、気晴らし半分でそれを再現していく、あなた側からの行為をしていることになるのです。

文構造に忠実に訳した和訳例【解説】

まず、英文の内容を把握するための第一段階として、**文法的・構文的な視点**で文構造を確認していきましょう。ここでは特に、第２文と第４文に触れたいと思います。

凡例 [　]は名詞句・名詞節、(　)は形容詞句・形容詞節、/　/は副詞句・副詞節を表します。〈　〉は並列を作る接続部に対して使用しています。

1　第２文

Good writing (of any kind) **will invite you to participate, / engaging your senses, emotions, imagination, and intellect /.**
S　V　O　C

「いかなる種類であっても、良き書物は、あなたが自分の感覚、感情、想像力や知性を従事させながら本の世界に参加するように招き込むことでしょう。」

◆ engaging以下は分詞構文、participateは…

２文目に出てくる**engaging以下は分詞構文**です。「～を従事させながら participate する」ことになるのです。participate はご存じの通り participate in A で用いられることが多く、その場合「A に参加する」と訳すのですが、今回は in A が省略されています。ここでは「読書をしている時」という状況設定になるので、「**本の世界に**参加する」のように、**省略されているin Aを補う**と、より明確な訳を打ち出せます。

◆ invite O to V'の訳し方

まず、**V O to V'型**の構文は「O が V'するように促す；させる」という**使役的な意味合い**を持つものが多くあります。invite に「招待する；招く」の意味があり、invite O to V'の形で、使役の意味合い「O に V'させる」が加わることによって「O が V'するように招き込む；誘引する」という意味を持ちます。参照用に V O to V'の例を以下に挙げます。

例）ask O to V'　：O が V'するように頼む
　　encourage O to V'　：O が V'するように勇気づける；促す
　　force O to V'　：O が V'するように強制する
　　order O to V'　：O が V'するように命令する
　　oblige O to V'　：O が V'するように義務づける

強制の度合いこそ異なりますが、上記の全てに**「Oに行動を促す」という使役の意味合い**が含まれていることが確認できます。

また、このことを踏まえてV O to V'構文についての応用的な訳出も考えてみたいと思います。例としてforceを使った例文で見ていきましょう。

例） **Perry forced Japan to open up to the world.**
「ペリーは日本が開国することを強制した。」

→ Perry forced Japan to open up to the world.
ペリーは強制して　日本に開国させた
ペリーは強制的に　日本に開国させた
ペリーは無理やり　日本に開国させた

force O to V'で「OがV'するように強制する」と「強制的にOにV'させる」という訳し方ができます。ポイントは①**O to V'にネクサス関係（OがV'する）**がある点。そして、②述語動詞の部分（force）で使役の強制力などの細かいニュアンスを加えていて、**述語動詞の部分を訳す時には「強制的に」「無理やり」など、副詞的に訳す**ことができる点になります。invite O to V'の場合では「招いてOにV'させる」「誘いかけてOにV'させる」となります。

また別の文法項目で、ここでは、"A good writing"という無生物が主語になっています。その点に注目して**無生物主語構文**の訳を適用した方もいると思います。invite O to V'を「（Sによって）OはV'するように招き入れられる」と訳せば、語義通りの「招く；誘引する」の意味を残したまま訳出できます。

さらにforceの例で見た「述語動詞を副詞的に訳す」という発想を組み合わせれば、「Sに招かれるようにOはV'する」や「Sに招かれてOはV'してしまう」とも訳すこともできます。

2 第４文

/ When you read /, you absorb〈,〉 evaluate, 〈and〉 extend ［what the writer has articulated］, / interpreting it in light of ［who you are］〈and〉 ［what you know］/.

（you：S　absorb：①他V　evaluate：②他V　extend：③他V　what the writer has articulated：O）

「あなたが読書している時、筆者がはっきり述べたことを、自分が何者なのかや自分が知っていることの観点で解釈しながら、吸収し、評価し、そして拡張します。」

◆ 共通構文

"you absorb, evaluate, and extend what the writer has articulated"の部分はいわゆる**共通構文**なっています。並列されている箇所を次のページに示したように組みなおして考えることができます。

you / s { absorb, evaluate, 〈and〉 extend } [what the writer has articulated]
O
①～③他V

what the writer has articulated の名詞節が３つの動詞 absorb、evaluate、extend の**共通の目的語**になっています。したがって和訳の際には「**Oを** absorb して evaluate して extend する」という順番にます。「absorb して evaluate して**Oを** extend する」という順番にはしない点に注意します。

◆ who you are and what you know

what you knowは「あなたが何を知っているのか」または「あなたが知っていること」「あなたの知識」などで訳せたのではないでしょうか。ただ、**who you are**は気になるところ。「あなたが何者[誰]なのか」から工夫したいところです。つまり「あなたの人格」や「あなたの性格」としてよいのかどうか、ということです。

おそらくここで気になったのは、"It is not what you have but what you are that counts."などに見られる、**what you are との違い**、つまり、補語になった場合の**who と what の違い**ではないかと思います。どうでしょうか？

補語になった場合、人について**who が姓名・身元などを問うときに用いる**のに対して、補語としての**what は通例職業・性格などを問うときに用います**。次のような例があります。

例） She had said to him: "Jack, I don't know who or what you are for sure, but please come visit me in Paris."
「彼女は彼に次のように言ったことがあった。『ジャック、あなたがどこのだれだか、どういう人なのか、よくは知らないけれど、パリにいる私を訪ねてきてちょうだいね。』」

who は「姓名、住所、職業、経歴などを含め、その人の生まれや育ち」つまり「何者か（identity）」を表します。従って、who you are を名詞化して訳す時には、**「身元」や「素性」**を訳語に適用する方が、who 本来の意味に忠実に訳出できることになります。

文脈を考慮した和訳例【解説】

２つ目の文脈を考慮した和訳例を作成した際にこだわった点を、下に列挙します。

◆ good writing：書物が良い

「良い書物」ということは「書物が良い」ことなので、その変換をしています。形容詞 good とそれがかかる名詞 writing には**意味上のネクサス関係**があります。

◆ will：Vするものだ（習性）

未来のことではなく、**現在習慣的に起こっていること**に対して使っているので習性で訳しました（この用法では総称の名詞「～というもの（全般）」を主語に取ることが多くあります）。

例）Accidents will happen.「事故は起こるものだ」
Money will come and go.「金は天下の回り物」
Cf. She will often sit here saying nothing.「彼女は何も言わずによくここに座っているものだ」（現在の習慣）
※ will が現在のことを表すこともあります

◆ participate：入り込む

「本の世界に…」に巧く繋がる、相性の良い動詞として「入り込む」を使いました。participate の意味を残したまま自然な訳になります。

◆ invite O to V'：誘われるがままにOはVする

invite が持つ「招く；誘引する」の意味より、まるで「本が誘っている」かのような**比喩**で訳しました（participate を比喩的に訳しことに合わせて invite も比喩的に訳しました）。

※また、invite を participate よりも先に訳すことで「誘われて→入り込む」という**時系列通りの訳順**にしています。実際、英語でも invite you to participate（"invite⇨participate"の順）で書かれているので、前から訳し下した方が、「O が partifcipate するように invite する（"invite⇦participate"の順）」の訳し上げよりも時系列に忠実な訳順となります。ここまでこだわるだけの意気込みで。

◆ It will trigger your own memories, and associations：そうであることがきっかけとなり自分自身のさまざまなことを思い出したり、さまざまな連想が働いたりするものです

trigger O「O の引き金となる」より、**「Oのきっかけとなる」**と訳しています。「記憶（memories）」を思い出すきっかけとなったり、「連想（associations）」を起こすきっかけとなっていることを自然な日本語にしました。また、memories と associations が複数形になっている点も訳に出します。日本語では**「さまざまな」「いくらかの」**を添えることによって、その複数のニュアンスを表現できます。

◆ stimulate your thinking：思考を活性化する

「思考」とそれに対して相性の良い動詞を考慮し、「思考を活性化する」とします。「思考を刺激する」とするよりも自然な日本語になります。

◆ what the writer has articulated：作家が著したもの

articulate「はっきりと述べる」に**「著（あらわ）す」**という訳を充てました。

※ what the writer has articulated は、実質「筆者が著したもの；著作物（writing）」を指しています。

◆ absorb, evaluate, and extend：取り込み、評価し、膨らませる

この部分は**第２文目**に対応させて訳語を決めています。

第２文目 —— engaging your **senses**, **emotions**, **imagination, and intellect**
第４文目 —— you **absorb**, **evaluate**, and **extend**

「作家が著したものを（五感で）取り込み、（感情で）評価し、（想像力や知性で内容を）膨らませる」というように、パラレルな展開を意識してそれぞれの動詞の訳語を決定していきます。

※ evaluateは**主観的価値判断**をすることを意味し、好き・嫌いなどの**感情的傾向**によって個人的な感想を持つことを表します。

◆ recreate：気晴らし半分で再現していく

「気晴らしをする」と「再現する」の**掛詞**となっていることを考慮し、両立しながら訳しました（ここでの「～半分」は 50%という割合を表すのではなく、「～がてらに」の意味で使っています）。

◆ you recreate it：気晴らし半分でそれを再現していく、あなた側からの行為をしていることになるのです

第１文の "Reading is not a passive act.（読書は受動的な行為ではありません。）"に対応する箇所になります。you recreate it の "you"を「あなたは**『は』**」とせずに「あなた**『が』**」と助詞を工夫することでもその**積極性**を表すことはできますが、ここでは「あなたが主体になっている」ことをより明確にし、また第１文との対応箇所であることを訳の構造からも明確にすることを意図して**「あなた側からの行為」**としました。

後書き

２つ目の和訳例、いかがだったでしょうか？　英文和訳をする時には、日本語同士で相性の良い語を選択する方法、そして文と文の繋がり（文脈）を把握し、現在和訳している箇所以外からのヒントを手がかりに訳語を決定していく方法も利用していきたいところです。「英文和訳」といっても、深いですね。

さて、次回も英語の深みに触れる内容を展開していきたいと思います。それではまた、次回お会いしましょう。